



平成25年10月22日
内閣府（防災担当）

南海トラフの巨大地震モデル検討会（第40回）及び 首都直下地震モデル検討会（第22回）合同会議 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成25年7月16日（火） 13:00～15:00

場所：中央合同庁舎第3号館 防災A会議室

出席者：阿部座長、入倉委員、岡村（行）委員、金田委員、佐竹委員、橋本委員、平川委員、古村委員、山岡委員、山崎委員の南海トラフの巨大地震モデル検討会各委員
阿部座長、大原委員、岡村（行）委員、佐竹委員、武村委員、平田委員、古村委員、山崎委員の首都直下地震モデル検討会各委員

2. 議事概要

最大クラスの強震断層モデルの長周期地震動の計算手法などについて事務局から説明を聴取し、委員間で議論を行った。今回の議事の概要は次のとおり。

【南海トラフの巨大地震】

- 最近の調査で、紀伊半島の南岸は70センチぐらい隆起していたという報告がある。これだと潮岬が下がってしまう。また浜名湖あたりで沈降したという報告も出ている。そういうデータと結果の整合を取る必要があるのではないか。
- 地殻変動はコサイスマミックな変動以外にも隆起のメカニズムあるかもしれない。解析結果が報告と一致していなくても仕方ないこともある。

【首都直下地震】

- 神縄・国府津は関東地震タイプの分岐断層と考えられるので関東地震に含まれることから、単独の断層としては対象としないのはどうか。
- 関東平野北西縁断層は地震調査委員会では長さを含め現在評価中であり、従来そのまま取り扱うのは問題ではないか。
- 安政江戸地震についてどういう地震かということについていろんな議論があり決めかねているということがわかるような資料はつくっておかなければならないのではないか。
- 今までは何となく東京湾北部地震があると揺れが強くなると言っていた理屈が、実は10キロぐらいプレート境界が浅くなることによって東京湾北部地震というものが存在しなくなった。しかし

東京湾北部地震というのは、名称を変えてスラブ内東京湾北部地震として検討し、フィリピン海プレートの深さについての最近の知見を用いて、東京湾北部地震などのプレート境界やプレート内の地震についてこの会議で詳細な検討をして内容を整理して公表する必要がある。

【最大クラス関東地震M8】

- 首都直下のM7クラスと最大クラスの地震とで緊迫度が違うため、二つを同列に示すと混乱するのではないか。
- 当面起きそうもない関東地震は留意事項なり残しておいて、本当に必要なときに再度検討するやりかたもある。
- 首都直下地震モデルについて社会や自治体が必要とするモデルは3つある。緊迫性のあるM7級のもの、長期的な防災計画に必要な、起きる可能性の高い関東地震M8級のもの、それから、念のための最大級のものだと思う。この3つのモデルの中で最近の知見を入れて大きく変わるのは関東地震M8級の地震のモデルではないかと思うが、それについて国の考え方を示す必要があるのではないか。
- 前回の2004年想定の時点では、関東地震が80年前に起きたばかりだから、この地震は当面起きないとはっきり言えたが、東日本大震災が起きていろんな状況が変わってきた今の段階でもそのままでもいいのかどうか。今の段階でも本当に関東地震の発生は無視してよいと言えるのか。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 藤山 秀章

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 平 祐太郎

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199